

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月22日

協議会名: 御坊市地域公共交通活性化再生協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
熊野御坊南海バス株式会 社	日高川線1 御坊南海バス前～川原河(高 津尾経由)	令和4年10月から運行ルートの 見直しを実施した。	A	事業が計画に位置付けられ たとおり、適切に実施され た。	B	事業が計画に位置付けられ た目標を達成できない点が あった。(輸送人員目標 38,500人に対し、19,933人)	目標達成に向けて啓発活動を行 うとともに、運行経路の見直 し等で引き続き利便性の向上 を図る。 また小学生を対象としている MM事業について、対象者の拡 充などの実施を検討する。
	A		事業が計画に位置付けられ たとおり、適切に実施され た。				
	日裏線 御坊南海バス前～川又観音口 (崎の原経由)		A	事業が計画に位置付けられ たとおり、適切に実施され た。	B	事業が計画に位置付けられ た目標を達成できない点が あった。(輸送人員 R5 7,230人に対し、4,061人)	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月22日

協議会名：	御坊市地域公共交通活性化再生協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	御坊市は、日高地方の中心都市としての役割を担っており、学校、総合病院、大規模な商店等の日高郡の日常生活機能が集約していることから、県内の市の中でも昼夜間人口比率が最も高く、乗合バスによる公共交通網は、周辺町から市内に向かう形で運行されている。 このことから、日高郡での乗合バスの利用者の傾向においても通学や通院等に利用されている方が多く、車を運転できない学生や高齢者等を中心に生活に必要不可欠な交通として機能している。 しかしながら自家用車の普及や人口減少、新型コロナウイルス感染症による乗客の減少等により、運行に様々な問題が発生している。 今回、フィーダー系統確保維持に基づき申請する日高川線及び日裏線においても、上記の理由から地域公共交通確保維持事業により各路線の確保・維持することで、住民の生活手段を存続させていくことが必要である。